



平成30年度

北海道八雲養護学校学校評議員会だより



平成30年度北海道八雲養護学校第2回学校評議員会を2月12日（火）に本校校長室において開催しました。

第2回評議員会では、校長挨拶、校長からの今年度の学校教育目標、重点目標の評価についての説明のあと、教頭から「今年度の経営方針に基づいた取組の成果について」「学校評価の結果と改善に向けて」の説明を行いました。

その後、評議員の方々から、今年度の取組や学習活動や学校評価の結果などのご意見をいただき、来年度の学校経営の方針つなげていくことが確認されました。

校長から

<校長からの平成30年度学校教育目標・今年度の重点目標への評価について>

- 今年度の目標の達成に向けて、どのようにアプローチできたかを評価し、来年度へつなげていくことができるよう、今年度の取り組みについて評価を行った。
- 指導の重点は概ね達成できたと考えている。指導に関しては授業が命である。授業力向上に向けて指導主事を招いた校内研修や研究部を中心として授業力向上に向けた取組を推進しているところである。
- 教科横断的な考え方については、まだ十分にできていなく、まとめ切れていない状況である。今後に向けて、各教科等においてしっかりと整理していく必要があると考えている。
- 経営の重点については、病院の協力を得て行っている校内研修は、教員一人一人の病弱教育に関する専門性の向上につながっている。
- 病院との連携では、医教情報交換会などでの情報共有はできているが、担当者レベルでは日常的な連携が難しい面もあり、担当者レベルでの関係性を作っていく必要があると感じている。
- 各学部の教育については概ね達成できていることから、学校教育目標についても概ね達成できていると考えている。
- 一方で課題もあり、学校教育目標については「自らの可能性を生かし、心豊かに生きる人を育てる」であるが、育てた結果どのようになるのかということを見据えて考えていく必要があり、移転に合わせて改訂も検討している。
- ICTが普及し、病院にいながら参加できることも増えてきている。指一本の先には世界があるということを踏まえ、何を発信するのか、どう発信するのかなどを病院と学校が協力しあいながら考えていく必要がある。

学校からの説明の概要

<教頭からの説明>

- 今年度の取組の成果について
 - 今年度も渡島教育局から義務教育担当や高等学校教育担当の指導主事を招いた研究授業を実施し、授業後に「主体的・対話的で深い学び」「考え、議論する道徳」「高等学校新学習行動要領」について理解を深める校内研修も実施した。
 - 年2回の就労体験学習や校外学習等において、町内の関係機関のご協力をいただき、地域の社会資源を活用した取組を推進している。就労体験学習については、今年度は北海道立特別支援教育センターとの遠隔での就労体験をじっしするなど広がりができてきている。
 - ハローワークの学卒サポーターや函館市内の民間企業の方を講師とした職業講話を実施するなどして、社会人としてのマナーや社会で必要とされる力を知るなど、自己の進路を考える機会を設定することができた。
 - ICTの活用については、全道的に見ても先進的に取り組んでおり、今年度は新たに中学部において、札幌への機能移転後に一緒に校舎で学ぶことになる山の手養護学校中学部との遠隔交流を実施した。また、本校のICT活用の実践を地域連携研修会において、町内外の多くの教員に伝えることができた。
- 学校評価の結果と改善に向けて
 - 教職員が行う自己評価の結果から、全体として昨年度に比べ向上しており、今年度の教育活動等については、一定の成果があったが、母数や教職員の集団が昨年度とは異なることから参考数値として考えている。
 - 「学部及び分掌等の組織的な運営に積極的に参加できている」の項目が低い数値となっており、新学習指導要領では組織的かつ計画的な取組が重要になることから、教職員一人一人の学校運営への参画意識を高めていく必要があると考えています。
 - 道徳教育に関しては、昨年度よりも数値は微増しているが、依然として低い数値であることから、今後も指導主事による道徳教育に係る校内研修を継続的に実施していく必要があると考えている。

各評議員からの意見

【就労体験学習について】

- 就労体験学習は、以前と比較すると内容面、技術面において充実した取り組みとなっている。病院にもテレワークなどで就労している人もいるので、在学中に遠隔システムを活用した体験やテレワークなどを体験しておくことで、将来のことを考えるきっかけになるので今後も継続して実施してもらいたい。

【札幌への機能移転について】

- ICTの活用や児童生徒一人一人に配慮した授業は八雲養護学校の特徴的なことで、山の手養護学校と一緒に校舎になったときに一緒にできるようになるとよいと思う。また、地域の社会資源の活用などについては、山の手養護学校の教職員に助けを借りながら進めていくなどの取組を行っていく必要がある。

【学校評価の自己評価について】

- 今年度の取組を評価し改善につなげていくことは重要である。その一方で、今まで行ってきた活動を総括し、これまでお世話になってきた八雲町に対して感謝の気持ちを伝えていくことができるような教育活動を考える必要がある。